

平泉を掘る

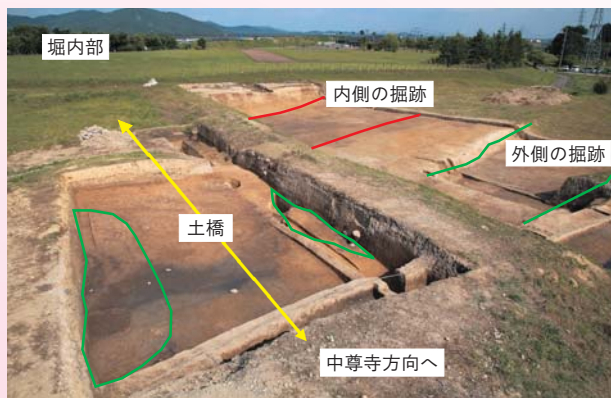
本年度の柳之御所遺跡の調査では、堀に囲まれ政庁「平泉館」が位置したと考えられる内部と一族の屋敷などの関連する施設が所在する外部が接する北西端周辺を調査し、遺跡区画する2条の堀跡と外側の堀跡に架かる橋跡を確認できました。

2条のうち、内側の堀跡は幅12～13mほどで南北方向に伸び、12世紀後半に機能した遺構です。外側の堀跡は幅5～6mほどで南北に走り、これまでの調査成果から内側の堀跡より古い遺構と判断できます。土橋は外側の堀跡を通るように、幅4.5mほどの大きさで確認できました。外側の堀を構築するとき地山を掘り残して形成されています。位置などから土橋の上面部分が道路として機能したと考えています。外側の堀跡はその後、人為的に埋め戻されています。土橋もこの土層に覆われており、周辺一帯で整地地業が行われたとみられます。

柳之御所遺跡では堀で区画された内部と外部のそれぞれで中尊寺方向へ伸びる道路跡が確認されています。今回の橋跡はこれらの道路跡とつながり、当時の文献に残された柳之御所遺跡と中尊寺との関係を補強する大きな意義をもつ成果と考えています。

発掘最前線¹⁶¹

— 柳之御所遺跡の調査成果 —



柳之御所遺跡



柳之御所遺跡(全景)